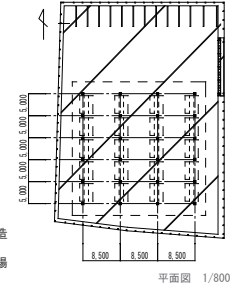


『地場産材による木造トラス』

木造トラスには、地場産材である日光杉を使用し、『木材の風合い』『しなやかさ』『軽さ』を表現



建物の核となる構造体には、必要とされた有効スパン8.5m×5mを集成材に頼らず、杉の無等級材で実現しました。柱には、4本の角材を使用する事で、柱と梁の接合を重厚感のない剛接合としています。ジョイントには、施工性を簡易にする為、最小限のボルトとビスを組み合わせた工法採用し、トラス材の継ぎ手には、伝統的な『金輪継ぎ』を使用する事で、金物が見えてこない納まりとしました。使用材料も、柱材に4.0寸部材、梁トラス材に3.5寸部材の2種類のみで構成し、長さも3m~6mの一般的な流通サイズとする事で、同規模の本造集成材建築物より大幅なコストダウンを可能にしました。



①A通りトラス先端部 ②B通りトラス交差部 ③柱脚部 ④C通りトラス交差部 ⑤金輪継ぎ手

建築場所は、栃木県日光市という自然豊かな場所にあります。敷地からは、日光のシンボルでもある男体山や美しい彩りの層数林も見えます。日光の雄大な景観にも調和できるように建物自体が主張し過ぎないよう配慮しています。設計条件は、木材が置けるスペースと搬出入の作業ができるスペースに屋根があれば良いというシンプルな内容でしたが、建主が材木屋であった為、鉄骨造の倉庫建築ではなく、地場産材の木材を多く取り入れた建物にしたいと思い、最終案として、見出しの柱・梁に、日光杉を使用した木造トラス造を提案

